

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500154		
法人名	株式会社 江陽		
事業所名	グループホームふじの里(やまぶき棟)		
所在地	奥州市江刺区藤里字平37番地2		
自己評価作成日	平成26年1月6日	評価結果市町村受理日	平成26年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0391500154-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成26年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○「笑顔」「和」「支え合い」をモットーに「ちょっと待って」を言わない介護、理念を基に日々の目標として支援しております。
○お風呂は温泉のお湯を使用しています。
○毎月ふじの里だよりを送付して利用者様の状況報告等ご家族とのコミュニケーションを図っております。
○午前と午後のレクリエーションを中央ホールで行い歩く距離(移動)でメリハリがあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームふじの里は、株式会社江陽に属し、同一建物内に2ユニットのグループホームと、認知症対応型通所介護(ふじの里デイサービス)があり、看護師、職員の人的協力体制が築かれている。外部への情報発信を工夫しながら、積極的にドライブ等の行事をしたり、同一法人の「グループホーム花の家」で地域住民と一緒に介護セミナーや、利用者同士の交流に努めている。利用者の機能低下予防のためにも、午前・午後とレクリエーションの実施や、一人ひとりの思いの傾聴に心がけ、明るいグループホームを目指すべく日々努力と工夫を重ねている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念をかかげ、ホーム内に掲示している。「笑顔」「和」「支え合い」をモットーに「ちょっと待つて」を言わない介護の実践の為、職員間で連絡ノート等を活用している。	理念は職員からの意見や、要望を聞きながら作り上げた。開設して2年目であるが、個々の連絡ノートで利用者一人ひとりに応じた介護や、気付きを習得しながら実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会の際は、保育所園児さんの慰問を受け利用者さんと交流会を開催している。、その他に、小学校運動会や地区運動会に招待頂き見学に行っている。ホームの夏祭りには近隣住民の方々に呼び掛け参加され、縁日市やスイカ割り等で交流し楽しまれた。	自治会には加入していないが、藤里第4区長から市の広報を頂いている。また、藤里振興会長からも各種行事の情報は得られている。地区センターの文化祭は、2年に1度あるので、新年度は、貼り絵や午のちぎり絵等の出品を予定している。	利用者がこの地のホームで暮らし続けるために、地域との繋がりは、大切である。普段の暮らしの中での関わりを深めながら地域の一員として緊急時などにも、理念でもある「支え合い」を大切に、より一層日常的な協力関係が築かれていくことに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は、法人としてた地域住民を対象とした介護セミナーを実施した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各行事の報告、委員の方に行事(餅つき大会)に参加して頂き、意見をうかがっている。	運営推進会議の中で、消防団長から、緊急時の際に外に対しての放送設備の設置をして、地域に周知できるよう要望があった。	運営推進会議に、警察の方に参加して頂いたり、多くの家族の参加、地域の民生委員の参加など、地域の方等との更なる関係作りに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例に関し、地域包括支援センターに対し報告し、指導助言を仰いでいる。	介護認定の変更、更新の手続きの際の情報提供や、利用者の生活保護を受けるための相談事、ホームでの暮らしぶりなどを伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を開き職員の勉強会開催して全員参加され正しく理解され、社内の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	開設2年目、当初は外出傾向の利用者がいたが、今は、落ち着いた雰囲気生活している。マニュアルもグループホーム独自で作成し、勉強会も実施している。チャイムもセンサーも設置せず、見守りでの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する資料はユニットに備え付けてある、理解を深めるべく社内勉強会等を開催している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームふじの里(やまぶき棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している利用者はいないが、日常生活自立支援事業や成年後見制度の資料はユニットに備え付けてあるので、今後理解を深めるべく勉強会等を開催する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ホーム入居に関する不安な面に関しては丁寧に説明するよう心がけているが、新たに契約時の意向確認書を作成し、重要事項に関しては二重に確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に目安箱を設置し利用者・家族の意見が反映できるように心がけている。	家族の要望で皮膚科の受診や、CTの受診依頼等があり、その支援に取り組んでいる。利用者の意見・要望の把握については、家族が来訪した際に聞くようにしている。行事に家族の参加支援を求めている。半分ぐらいの参加を頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者・職員でのミーティングを定期的に開催している。	職員からの要望で、非常口の階段をスロープに変えたり、洗濯機を購入した。法人内の人事異動については、家族が来訪した時に紹介している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者・管理者・職員でのミーティングを定期的に開催している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務体制を配慮し、社会福祉主事、実践者研修、管理者研修を受講した職員がいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県認知症高齢者グループホーム協会の会員であり、岩手県や奥州ブロックの定例会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時から、本人様並びに家族様の不安やホーム入居に関する意向確認すると同時に、入居前にご自宅等を訪問し、ホームに入居後も生活の継続性を配慮した支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時から、本人様並びに家族様の不安やホーム入居に関する意向確認すると同時に、入居前にご自宅等を訪問し、ホームに入居後も生活の継続性を配慮した支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご自宅を訪問し本人、家族との面談を通してご自宅にいたさい、一番困っていることを、共有できるよう配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が茶碗を拭いたり、おしぼりを作ったり、中庭の草取りなどを主体的に参加してくれる事があった。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が入居後のケアに関して職員と気軽に話し合う事が出来るように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親戚、友人等の面会、保育園児、小学生の交流を通して人とつながりを保つ事が出来るよう支援している。床屋さんが2カ月に一度、髪をカットにきている。	老人クラブの仲間の方々との交流に努めている。墓参りには混雑時を避け、時期を少しずらして行くなど配慮に心がけている。理・美容院も馴染みの所へ行っている方もいる。ホームとしては、今後お盆・お正月は家族との交流を深めたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーションの際、なじみ関係を配慮して席順等を決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設から特別養護老人ホームに入居された利用者の家族から、近況を確認をした事があった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や、入居後の状況及び本人の訴え等の聴取から、「その人らしく」生活できる為に必要な支援をスタッフ全員で話し合い検討している。	各部屋に担当職員がおり、1年交代とし、情報の共有に努めている。業務日誌以外に、一人ひとりの気付き連絡ノートがあり、補聴器の修理や、電池の交換等をしている。意思疎通が難しい利用者には、紙に書いたり、絵で理解できるよう工夫している。利用者の個性を見極め、気付きを大切にしながら、コミュニケーションを大切に、また声掛けを待っている利用者へは声掛けし、工夫をしながら関わりを持つよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居判定会議後の在宅訪問時、ご自宅での状況を家族から聴取したり、家の状況を実際に見たりして現状を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の特徴を記載できる日課表を作成し、1人1人の過ごし方を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	始めは、職員、本人、家族との会話の中から課題を見つけ出しケアプランを作成している。その後、入居後の状況をアセスメントしカンファレンスによりケアプランを修正している。	モニタリングは、毎月実施し、介護計画の短期目標は3ヶ月毎に、長期目標は6ヶ月毎に確認をし、変更や継続している。家族からは、「みんなと仲良くして欲しい」という要望が挙げられている。歩行困難な利用者の方は、手引き歩行を行っているが、今後は歩行器を使用しながら、体力の維持に努めたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施記録、業務日誌、連絡ノートにて日々の介護で気付いたことを記入して職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医以外の受診の際、車イス利用者で家族(娘さん)だけの受診困難なため職員も一緒に受診に行った。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームふじの里(やまぶき棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の運動会(小学校の文化祭)に参加した際、駐車場や振興会職員の皆さんに利用者の椅子の用意等ををしていただき、円滑に参加する事ができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に医療機関の医療に関して話し合っている。特段の希望が無い場合は、ホームの協力医療機関を利用している。	各種専門医の受診は家族にお願いしている。複数の医療機関との連携は、医療受診記録で関係を密にしながら、支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が勤務しており服薬状況や医療機関の受診状況等を介護職員と共有し、利用者の体調管理を努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に緊急受診、入院した場合、看護サマリーを医療機関に提示している。退院時は看護サマリーの提示を求め、スムーズにホームに戻ってこられるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合いをしてGHで出来る事、本人が出来た事を明確にして家族に説明し、家族の意向も取り入れチームで支援し取り組む	家族の希望として、最期は「病院」と考えている。利用者の家族が泊まって介護をした例はあるが、最後は救急車にて病院に搬送を行った。ホームとしては、医療行為が生じた場合やリフト浴が必要となった時まで対応が可能としている。家族からの要望があれば、実施したい意向はある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最低限のマニュアルは作成しているが、ホーム内での実践的訓練は不十分であり今後、実施していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定、昼間の避難訓練は行なった、運営推進会議等でも話し合いは、行なったが、近隣住民への声掛け、協力の働きかけの取り組みを今後実施していきたい。	避難訓練のマニュアルや、避難訓練経路を作成した。避難訓練を実施する際の地域の協力体制は、今後の課題としている。	外の景色が暗くなった状況での避難訓練も今後は必要と思われる。明暗の時の足場の違い、危険個所の確認等、まず職員が体感することが大切であることや、地域への働きかけに一層期待したい。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報には特に注意し取り扱っている。また声掛けについては分かりやすい言葉でゆっくりと声掛けしている。	利用者一人ひとりの個性豊かな人格を尊重しながら、創意工夫し、職員会議で共有し、支援に努めている。呼び名も名字の方、名前の方それぞれであり、会話も、方言でコミュニケーションを図りながら、対応している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望を職員からの問いかけによって引き出せるよう心掛けている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの起床時間に起きないで眠っていたりする利用者については、無理に起こさずに、本人の自発的行動を待つ支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	通院時、行事で外出する時、あの服を準備しておいてと頼まれたりする。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	秋の紅葉狩りの種山レストラン(ポラン)にて利用者の食べたい物を選んでもらい、外食した。希望献立を利用者に職員から聞いて毎日の献立に取り入れる。	献立は、利用者の要望を取り入れながら、1ヶ月分を作成している。行事食である、「もちつき」「みずき飾り」「ちらし寿司」、外食等をとても楽しみにしている。畑は田原の「花の家」にあるので収穫したものを頂き、食卓にのることもある。食事前には皆さんと一緒に、口腔体操(パタカラ)を実施した。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	実施記録の中に日々の食事量及び水分摂取量を記録し、そのデータから利用者の状況を把握している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前、口腔体操を実施している。食後の口腔ケア、就寝前の義歯洗浄を行っている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームふじの里(やまぶき棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の利用者ごとの排泄チェック表をつけ排泄パターンの把握をしている	排泄パターンに応じた見守りや、声掛け、全介助があり、夜間は時間の間隔を見ながら声掛けや、オムツ交換の個別支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動量確保の為、毎日デイホールへAM、PMの移動を促す。また移動してレクリエーションを実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日利用者の希望を聞き、体調にもよるが、デイサービスの浴槽を利用したり、原則は午前入浴だが状況により午後入浴時間に変更したり柔軟に対応している。	入浴は週3回としているが、入居者本人の希望で、毎日の方が4名程、入浴している。個浴のほか、デイサービスルームの大浴場は温泉のお湯を使用しており、ゆったりと温泉気分を味わうことができる。グループホームに入居する前から入浴が嫌いな方もおり、毎日の清拭や、皮膚科に通院されている方、体力低下で入りがたがらない方など、職員はそれぞれ声掛けに工夫しながら支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	デイサービスの静養室(和室)を利用し、こたつに横になり午睡、休養される入居者もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方等を個人チャートに綴り、看護師と看護職員が確認している。与薬に関しては確認表を作成し誤薬のないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	将棋の好きな利用者同士で、将棋を楽しまれたり、時には職員と対戦し、職員が負ける時もある。筋力低下により、立位保持や歩行困難な利用者もカラオケで好きな曲で目に涙を浮かべながら熱唱されています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は近隣にドライブに行ったり、戸外の散歩をしたりしている。季節行事で、お花見、つつじ狩り、もみじ狩り、等がある。この行事で野外での食事、レストランでの食事等も楽しまれている。	運動不足にならないように外出の機会を多く作ったり(阿原山、水沢公園、向山公園等のドライブ、買い物ツアー)、田原の「花の家」からバスを借用し、週2回は皆での外出支援に努めている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームふじの里(やまぶき棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則は利用者、個人の金銭所持は無く、ホームで小口現金として管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族(娘)に季節の服、以前利用していた歩行器を持って来てほしいと電話の依頼があり、職員が電話し、本人も話される。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者全員で作成した「午」の貼り絵を展示している。 ・座敷にこたつを設置し、将棋、午睡などで利用し楽しまれている。 ・ドライブや敬老会のスナップ写真を掲示し、利用者が写真をみて楽しまれている。 	利用者は、廊下のソファや、小上がりの畳の部屋の炬燵(2つ)があるところで、自由に過ごせるように配慮がされている。デイサービスルームが広いので、いつも集まり場所となっている。廊下には、日常生活の風景、行事の風景、敬老会の様子、保育園児、25歳厄年などの沢山の写真が貼られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席を固定し、食事の時は、馴染みの人と隣どうしで、楽しく食べてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具日用品、思い出の品など持ち込みを可能にしている。テレビを持ち込んだり、使い慣れた椅子なども持ち込まれている。	グループホームに備え付けられているものは、ベット・洗面所・押入れ・エアコンで、利用者個々には、お位牌、お花、写真、自分の作品など思い思いのものが持ち込まれており、個々の居室作りがなされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の中に、年月日を明確にしてメリハリをつけています。トイレに「便所」と張り紙をして迷わず使用されています。		